H29特別支援教育通信⑥

インクルーシブ

～わが子を見つめるための特別支援教育～

平成２９年１１月１４日（木）
文責：外尾優希（特別支援部）

＊学習障がい（ＬＤ）の視点から考える、子どもたちへの指導・支援

先月号では、「学習障がい（ＬＤ）」の特性について具体的に紹介しましたが、今回は、具体的な支援方法について紹介します。子どもたちの学習で気になる様子がある場合や、ご家庭での指導の際の、参考にしてください。

学習障がい(LD)の特徴

読む　書く　聞く　話す　計算する　推論する

この中のどれかに著しい苦手感を示す

○基本的に、知的な遅れはない。　○２つ以上の苦手感をあわせもつこともある。

家庭教育で実践したい、子どもたちへの指導や支援のポイント

①　何に困っているかを見極める

子どもが何に困っているか早く気づくことが大切です。教科としてのつまづきだけでなく、日常生活の様子も含めて、どんなところに苦手があるのかを具体的に見ていきましょう。

（例：見る力が弱いので音読が上手くできない。
音に対して過敏なため、指示が上手く聞けないことがある。等）

②　子どもの「苦手」に合わせた工夫を

例えば…

聞く方が得意なら、文章を読み上げる。

見る方が得意なら、図をかきながら説明する。

聞き取ることが苦手な子には、『こちらの声に集中できるよう、注目させてから話す』、『短くはっきり話す』、『メモや図を使いながら説明する』が効果的です。

③　しからずに、具体的な方法を提案する

「やればできるのに、努力が足りない」、『頑張ればできるはず』と思われがちですが、周囲がそういう気持ちでかかわると、本人もそう思い込み、頑張ってもできない自分に落ち込んで、自信ややる気はどんどん下がっていきます。

大人が一緒に考えながら、『こうしてみたら？』と、わかりやすくなるやり方を伝えてみましょう。それを繰り返すことで、子どもの「できた」につながり、自信をつけ、学習への意欲をもたせることができるようになります。